



円形の1号館屋根根に設置された太陽光パネル

## 「エコキャンパス」の象徴 太陽光発電 設置から13年 使用電力の2割賄う

本学が平成15年に銀杏学園短期大学から4年制大学の「熊本保健科学大学」に改組され、今年でちょうど20年になります。改組と同時にここ西里の田園地帯に建てられたのが円形の本館（現1号館）でした。本館建設のコンセプトは「エコキャンパス」。それをさらに充実させたのが直径132メートルの屋根いっばいに張られた太陽光パネルです。平成22年の設置以来、2672基のパネルは本学のシンボリックな施設として稼働し続けています。

本学の太陽光発電システムは、当時の小野友道学長の発案で国の補助を受けて設置されました。発電容量480キロワット、年間発電量49万キロワット時は、一般家庭約330世帯が昼間1年間に使用する電力量に相当し、約270トンのCO<sub>2</sub>排出を抑制していることとなります。

本学では、年間約4700万円（令和3年度）に上る光熱水費の8割を電力が占めています。年間の電力使用量は約250万キロワット時で、このうち太陽光発電は約2割を占めています。金額に換算すると年間800万円程度のコスト削減を実現しています。

太陽光発電には、発電量が天候に左右されやすい、パネルが1枚破損しただけで大幅に発電能力がダウンするという問題点もあります。しかし、化石燃料に代わる代替エネルギーが模索されている昨今、太陽光エネルギーの重要性は高まるばかりです。設置当時、発電容量で「大学日本一」とされた本学の太陽光発電システム。本学のシンボルとして今後も色あせることのない存在であり続けています。（NL編集部）

1号館玄関に設置された太陽光発電システムの説明パネル



平成22年2月に行われた太陽光発電システムの竣工式

熊本市消防局による大規模災害対策訓練が2日（木）、本学で実施され、防災サポーター学生65人と北消防署警防隊員39人が参加しました。

訓練は2部構成で行われました。1部は集団災害が発生したという想定で、防災サポーターの学生にとっては授業や防災サポーター訓練（普通救命講習、応急処置法）で学んだ手技を発揮する機会となりました。

2部では地震が起き、大学構内に多数の傷病者が発生。大学建物内からの火災を発見し、逃げ遅れが数人いるとの想定のもと、機能別団員と救急隊が連携して傷病者を搬送。建物内の要救助者を梯子車で救出しました。防災サポーターの学生たちが傷病者役と機能別団員役に分かれ、機能別団員役の学生たちは速やかにトリアージやAEDを活用した救命処置を施していました。

熊本市北消防署の奥村和文署長からは「熊本保健科学大学では167人の防災サポーターが様々な訓練に取り組んでおられます。今後も社会貢献を目指して頑張ってください」と講評をいただきました。（入試・広報課）

＝写真上は校内に取り残された要救助者を救出する警防隊員たち（奥）。同下はトリアージと応急処置をする学生たち

## 大規模災害に備え万全

## 救助車出動し対策訓練



## 苦心の研究成果 堂々と披露

## 修士論文公開発表会

令和4年度の大学院修士学位論文公開発表会が7日（火）、1304M講義室であり、臨床検査領域とリハビリテーション領域の計6人が研究成果を発表しました。

1人30分の持ち時間（うち質疑応答10分）で行われました。発表内容は、作業療法士の職業倫理感、姿勢と嚥下機能の関係、薬剤耐性菌など多岐にわたり、登壇した学生たちはスライドを駆使して研究の成果を披露、会場からの質問に堂々とした態度で答えていました。（NL編集部）



発表者と発表テーマは次の通り。（発表順、敬称略）

▽本田直（リハビリテーション領域）「作業療法士が有する職業倫理観に関する調査研究」▽田中綾香（臨床検査領域）「食用鶏盲腸便由来薬剤耐性菌の細菌学的・遺伝子学的検索」▽平本淳也（同）「ADAMI7阻害剤を用いた血小板保管方法の新たな提案」▽坂田圭士郎（リハビリテーション領域）「姿勢の違いによる嚥下機能の変化について

の検討」▽鉾之原将希（同）「Virtual Realityを使用したプリズム順応の方法の検証」▽岩永祐季（臨床検査領域）「井芹川の破傷風菌の分布調査および分離した破傷風菌の産生毒素を用いたトキソイドワクチンの作製と免疫マウスの抗体誘導能に関する研究」



大学院生たちが次々と研究成果を披露した修論発表会

## 猫との距離

私の家には8歳になる猫がいます。生後2か月頃、ご近所から家にやってきました。小麦アレルギーと鼻腔内腫瘍があり、それらの症状やステロイド剤の注射、時に点眼など、猫にとってしんどいことが多いと思うのですが、アレルギー予防の目的で、獣医師いわく「日本で二番目に美味しくないとキャットフード」を食べてくれるため、ホッとしています。

そんな猫ですが、寝る時の位置が少しずつ変化しています。子猫の頃は私の頭の横。4歳頃は腕の横。現在は両下腿の間に寝るようになりました。猫との距離が徐々に離れることが気になりネット検索した結果、「顔から離れる＝信頼度の薄れ」とあり、大変ショックです。しかし、爪切りや点眼など猫の嫌がることをしているため、仕方のないことかもしれません。猫の健康に気を付けながら、これ以上信頼を失わないように生活していこうと思います。



看護学科

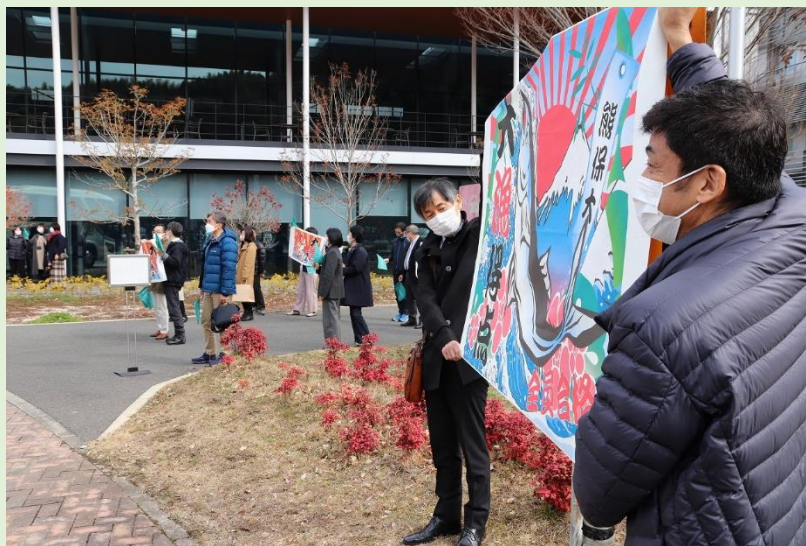
江上史子講師



## 全員合格を祈って

国家試験が始まりました。11日（土）には試験を翌日に控えた看護学科の学生たちが会場地に向けバスで出発。多くの教職員が横断幕を掲げるなどして見送りました。学生たちはバスに乗り込む際、先生方のメッセージ付きキットカットと同窓会より贈られたマスクやホッカイロを受け取っていました。看護師試験の合格発表は3月24日（金）です。看護師だけでなく国家試験を受ける全ての学生が合格することを教職員一同祈っています。（NL編集部）

今週の1枚



## インフォメーション

週間行事予定（2月18～24日）

2 / 24（金）

利益相反に関する研修会（15:00～ Zoom及びI300L講義室）